

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

ダパグリフロジンを導入した eGFR 25 未満の CKDstageG4 患者についての検討

[研究責任者]

腎臓内科 太田康介

[研究の背景]

腎臓病は、かつては不治の病として将来的には腎臓の働きが廃絶する非常に難しいという病気と言われていました。ところが近年は、多岐にわたる治療の進歩、早期発見早期対策、さらには疾患の社会的認知が進み、病気の予後が大幅に改善しました。なかでも近年慢性腎臓病の治療薬として処方されるようになっている SGLT2 阻害薬と呼ばれる薬にて、それ以前と比べても腎臓の働きが長期間保たれるようになってきています。ただこれまでのところ SGLT2 阻害薬は腎臓の働きがかなり低下した患者さんにどの程度有用であるかは不明のところが多いです。今回、実際に治療に使われた患者さんの臨床データを活用することで、不明な点に光を当ててゆきたいと考え今回臨床研究を計画しました。

[研究の目的]

eGFR 25 未満の慢性腎臓病患者においてフォシーガ®の有用性と安全性を明らかにする

[研究の方法]

●対象となる患者さん

慢性腎臓病の患者さんで、西暦 2021 年 8 月 25 日から西暦 2022 年 5 月 31 日の間にフォシーガ®の治療を受けた方

●研究期間

西暦 2022 年 6 月 1 日から西暦 2024 年 3 月 31 日

●利用する検体、カルテ情報

- 検体：使用しません
- カルテ情報

診断名年齢、性、体重、BMI、たばこや酒、血圧、検査結果（腎機能、CBC、電解質、尿検査、など）、病歴（特に糖尿病、心血管病、心不全の有無）、使用中の薬剤

●検体や情報の管理

情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

国立病院機構岡山医療センター

腎臓内科 診療部長 太田康介

電話 086-294-9911 FAX 086-294-9255